

第1章 丹沢大山自然再生計画の概要と位置付け

1 丹沢大山自然再生計画の概要

この自然再生計画では、基本構想で示された「奥山城」、「山地域」、「里山城」及び「渓流域」の4つの景観域ごとの自然再生の目標を目指し、景観域特有の課題と景観域共通の課題を整理した8つの特定課題（「Ⅰブナ林の再生」、「Ⅱ人工林の再生」、「Ⅲ地域域の再生」、「Ⅳ溪流生態系の再生」、「Ⅴシカ等野生動物の保護管理」、「Ⅵ希少動植物の保全」、「Ⅶ外来種の監視と防除」及び「Ⅷ自然公園の利用のあり方」）に取り組むための事業を位置付けて実施するとともに、自然環境の状態をモニタリングし、柔軟に事業の見直しを行う「順応的管理」の仕組みを取り入れている。また、企業、学識経験者、団体など多様な主体からなる「丹沢大山自然再生委員会（以下「自然再生委員会」という。）」が、PDCAサイクルに基づき、こうした事業の進捗や効果などを点検・評価している。

【丹沢大山が抱える主な課題】

基本構想では、丹沢大山全体を主要な景観の特徴と標高により「奥山（ブナ林）域」、「山地（人工林・二次林）域」、「里山（里地里山）域」の3つに分け、それらを上流から下流までつなぐ「渓流域」を加えた4つの「景観域」を設定し、丹沢が抱える課題を次のように、景観域特有の課題と景観域共通の課題に整理した（一部、基本構想作成以降の状況を反映している）。

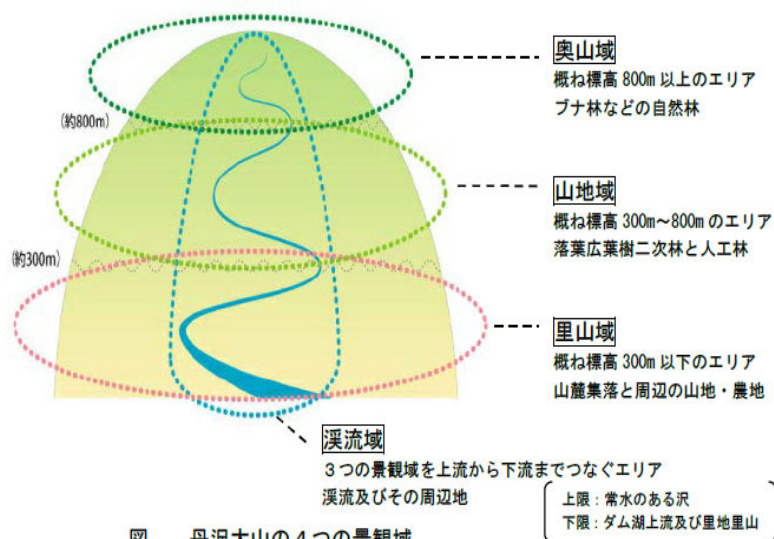


図 丹沢大山の4つの景観域



(1) 景観域に特有の課題

ア 奥山（ブナ林）域の課題（特定課題Ⅰ ブナ林の再生）

奥山域は、標高が概ね 800m 以上のブナ林*を特徴的な景観要素とするエリアで、丹沢大山国定公園特別保護地区の大部分はこのエリアに含まれる。

奥山域のブナ等冷温帯自然林では、オゾンなどの大気汚染物質や水分ストレス、ブナハバチ食害などの要因と立地環境などが複合的に影響し、ブナを衰弱・枯死させていると考えられ、ブナ林衰退とニホンジカ（以下、「シカ」という。）の影響が組み合わさって生じる草地化・裸地化、土壌流出が大きな課題となっている。

* ブナを代表的な構成樹種とする奥山域自然林を「ブナ林」としている。ブナのみでなく多様な樹種から構成される。

イ 山地（人工林・二次林）域の課題（特定課題Ⅱ 人工林の再生）

山地域は、標高が概ね 300～800m のスギ・ヒノキなどの人工林や過去に薪炭林として利用されていた二次林を特徴的な景観要素とするエリアである。

戦後の復興造林やその後の拡大造林により、この地域の人工林は急激に増大したが、造林地はシカの餌場にもなったため、シカの個体数も急激に増加した。

その後、木材価格の低迷等により林業の不振が続き、手入れ不足の人工林が増えたことに加え、増加したシカの過剰な採食圧により、林床植生の衰退が進行し、土壌流出や生物多様性の低下を招いており、森林の持つ水源かん養機能の低下も懸念されている。

ウ 里山（里地里山）域の課題（特定課題Ⅲ 地域の再生）

里山域は、概ね標高 300m 以下の山麓で農林業等を営む人の暮らしのあるエリアである。林業をはじめとするなりわいの喪失、産業構造や生活様式の変化による農地や二次林の利用の減少等が、里地里山の荒廃を招き、シカなどの野生鳥獣による被害の恒常化などが問題となっている。

エ 渓流域の課題（特定課題Ⅳ 渓流生態系の再生）

渓流域は、奥山域、山地域、里山域を上流から下流までつなぐ水系のエリアである。

関東大震災などによる崩壊地の対策のため設置された砂防施設や治山施設は、近年の丹沢の土砂災害の減少や森林の回復に寄与しているが、渓流を横断する構造物が設置された箇所では、上下流が分断されることにより、主に淡水魚の移動に影響が出るなど、生物多様性の低下を招くおそれがある。

また、林床植生の衰退に伴う土壌流出及び崩壊地由来の多量の土砂の持続的な流出により、ダム湖では堆砂が進行し、ダムの寿命の短縮による水利用の不安定化を招く可能性がある。

(2) 景観域に共通する課題

ア シカに関する課題（特定課題Ⅴ シカ等野生動物の保護管理）

奥山域の鳥獣保護区内を中心にシカが高密度化し、過度の採食によって林床植生の衰退が顕著になるなど、自然植生に強い影響を与え、土壌流出の要因となっている。また、山地域や渓流域においてもシカの影響で林床植生が衰退し、里山域でも農作物への被害を発生させるなど、全景観域を通じた課題となっている。

イ 希少動植物に関する課題（特定課題Ⅵ 希少動植物の保全）

多種の希少種が確認されている奥山域では、ブナなどの枯死やシカの採食圧による林床植生の衰退などにより、希少種の生息環境の悪化が懸念される。また、シカの過度な採食等により林床植生や落葉が乏しくなっている渓流域の森林でも、サンショウウオなどの希少種の生息環境の悪化が懸念されている。

ウ 外来種に関する課題（特定課題Ⅶ 外来種の監視と防除）

都市部から分布域が拡大しているアライグマが丹沢山麓の人家周辺等でも目撃され、鳥類のソウシチョウやガビチョウが山中の森林で目撃されるなど、外来種の侵入が問題となっている。

エ 自然公園の利用に関する課題（特定課題Ⅷ 自然公園の利用のあり方）

多くの登山者が訪れる丹沢大山では、登山道の利用が東丹沢・南丹沢の特定路線に集中することによりオーバーユースが懸念され、また、トイレマナーなど利用者への普及啓発が必要となっている。

オ 協働・普及啓発に関する課題

自然再生の取組は、県民参加・県民協働により進めることが必要であり、支援再生の取組への理解と県民参加を促進するための普及啓発が必要である。

(3) 景観域と特定課題の関係

特定課題	奥山域	山地域	里山域	渓流域
○ 景観域に特有の課題				
I ブナ林の再生	◎			
II 人工林の再生		◎		
III 地域の再生			◎	
IV 渓流生態系の再生				◎
○ 景観域に共通する課題				
V シカ等野生動物の保護管理	◎	◎	◎	◎
VI 希少動植物の保全	◎	○	○	◎
VII 外来種の監視と防除	○	○	○	○
VIII 自然公園の利用のあり方	○	○	○	○

◎＝特に重要な課題

(4) 景観域ごとの自然再生の目標

景観域	自然再生の目標
奥山城	うっそうとしたブナ林の再生
山地域	生きものも水・土も健全でなりわいも成り立つ森林への再生
里山城	多様な生きものが暮らし、山の恵を受ける里の再生
渓流域	生きものとおいしい水を育む安心・安全な沢の再生

2 丹沢大山自然再生計画の位置付け

本計画は、丹沢大山の自然再生に関する施策の総合的な推進を図るための神奈川県の実行計画である。

また、神奈川県の総合計画「新かながわグランドデザイン」では、丹沢大山の自然再生を環境・エネルギー分野の主要施策に位置付けている。県では自然環境だけでなく、農林水産業、災害に強いまちづくりなど、すべての施策を連動させ、持続可能な社会の実現に向け総合的に展開している。こうした県の取組は、世界共通の目標であるSDGsの理念と軸を一にするものであり、その中でも自然再生はSDGsの取組そのものである。

新かながわグランドデザイン 施策体系表

Ⅳ 環境・エネルギー分野【抜粋】

中柱	小柱	主要施策
④自然環境の 保全・再生と活用	①自然環境の 保全・再生と活用2	地域の特性を生かした多彩な森林づくり
		水源の森林づくりの推進
		水源環境保全・再生を支える取組の推進
		水源地域の水環境の保全
		丹沢大山の自然再生
		生物多様性の保全
		都市のみどりの保全と活用
		野生鳥獣の保護管理の推進